

私立大学情報教育協会
平成24年度
大学職員情報化研究講習会
基礎講習コース

D-3班DAISUKE3

1

テーマ1

責任ある情報を公表するための
職員の役割

2

情報を公表する意義、目的

- ①自分の大学にどのような特徴があるか
を知ってもらう ⇒ 差別化
- ②自分の大学の強み・弱みを知り、
改善・行動

3

情報公表の現状
～17歳の気持ちになって～

大学選びの際、
①好奇心旺盛な受験生 と、
②妥協する受験生 に分類される。

「この大学で学びたい」と思わせる情報が必要
⇒しかし実際は、情報を陳列しているだけ！

4

教育情報の作られかた

各部署で作られている ⇒ 統制が取れていない

教員・職員間で意思統一された情報
を公表するべき！！

5

公表する情報の作り方

“責任ある情報”とは・・・
“職員の役割”とは・・・

6

責任ある情報を公表するための 職員の役割についてのまとめ

- ・責任ある情報とは、**教員・職員間で意思統一**されたもの。
- ・その情報を保証するための職員の役割とは、**弱点を改善、行動していくこと。**
- ・**弱みをいかにチャンスに変えていくか**が、職員としてやるべきことのポイント

7

テーマ2

学士課程教育の質的転換を図る ための職員の役割

8

教育の質的転換の必要性

- ・**社会が求めている能力と、学生の能力のミスマッチ**
⇒大学の教育が、社会の要請に応えられていない。
- ・**教育の質を保証**
⇒ポリシーで約束されている。
- ・**世界に開かれた大学**
⇒外国語を学ぶだけでなく、外国語を使ってどう接していくか、文化や考え方を学ぶ必要もある。

9

社会が求めている能力とは

社会人基礎力

- ・前に踏み出す力(アクション)
- ・考え抜く力(シンキング)
- ・チームで働く力(チームワーク)

10

教育の質的転換のための準備

- ・「双方向」で議論する場の提供
⇒**能動的学修(アクティブ・ラーニング)**
ex.少人数教育(ゼミ)
- ・**教員への情報提供・情報共有**
⇒学生と教員の評価のギャップを知ってもらうためのシステムが必要
- ・**チェック機能**
⇒ギャップが解消されているかのチェックが必要

11

教育の質的転換におけるICTの活用

| ICTの具体例 | 活用例 |
|---------------|---------------------------|
| ルーブリック(評価基準表) | 学生と教員それぞれの評価が分析できる |
| クリッカー | 授業時に、リアルタイムで学生の回答を集計する |
| シラバスアプリ | 内容の充実したシラバスを手軽に確認する |
| 強制力のあるe-ラーニング | 必修科目は、e-ラーニングを受講することが履修条件 |

12

教育の質的転換に職員の果たす役割

- ・ICTについての**知識**を持つ
- ・**チェック**を徹底する
- ・教員への**提言**を行う

13

学士課程教育の質的転換を図るための 職員の役割についてのまとめ①

教員の意識改革

- ・教員に危機感を持たせる
⇒ミスマッチ、教育の質の低下、学習時間の減少…
- ・教員へ意見・提言し、教員を巻き込んでいく

14

学士課程教育の質的転換を図るための 職員の役割についてのまとめ②

職員の意識改革

- ・新しいプログラムの提案
⇒ex.)入学前教育の一環として、大学における授業の学習方法を学んでもらう
- ・教員がやりたがらない隙間を職員が請け負う
⇒ex.)インターンシップの事前・事後教育

15

学んだことと、業務において どう活かしていくか

- ・教職員の意思統一
- ・教職員の意識改革
- ・強み・弱みを把握し、改善へ向けて行動することが重要。

16